

高尾山 花だより！



創刊号

高尾山の花名さがし隊
ショッパーから転載

はじめに

ショッパーに連載している「高尾山花だより」を、写真展で展示したところ、スクラップを忘れた人、八王子に住んでいるが配布されていない地域の人、八王子以外の人などから、小冊子にしてほしいとの要望が多くありました。要望にお答えして、1年分を小冊子にして出版することにしました。

高尾山の花名さがし隊

「高尾山花だより！」発刊に寄せて

遠藤進さんに初めてお会いしたのは10年前、八王子市市民企画事業の審査プレゼンテーションの場でした。高尾山の魅力を広く発信するための書籍を出版したいと熱く発表されていたのが印象的で、いずれはショッパー紙面にご登場願えればと思っていました。

その機会がやってきたのは昨年。高尾山の花々を毎月1回のペースでコラム連載していただけないかと依頼したところ、ご快諾いただき現在に至ります。読者からも好評でバックナンバーを求める声が多数届いています。

今回、四季を通じた1年分をまとめられたことは多くの方に喜ばれると思います。

2018年 夏

地域新聞ショッパー八王子支社
編集長 甘利 昌史



4月

高尾山花だより ～その1～

春の高尾山でスミレを楽しめませんか！

この季節はスミレの宝庫で、主なものだけでも10種類くらい、陣馬山を含む高尾地域では約30種ある。

一番早く咲くのがアオイスミレ、高尾山のあちこちで一杯咲いているのがタチツボスミレ。案内する時にスミレの名を聞かれたら「タチツボスミレといえば80%当たるよ」と冗談を言っています。

花の正式名はカタカナですがスミレに限らず漢字名にすると花名の由来が分かる。高尾山で発見されたからタカオスミレ、葉に丸みがあるのでマルバスミなどが良い例である。

(文・写真 遠藤進)



アオイスミレ(葵堇)

春一番に咲くスミレで下の2枚の花びらが閉じ気味である。



タチツボスミレ(立坪堇)

高尾山のあちこちに咲いている一番ボピュラーなスミレ。



タカオスミレ(高尾堇)

葉がこげ茶いろなのですぐ分かる。1号路を少し登ったところに咲いている。



マルバスミレ(丸葉堇)

葉と花びらに丸みがある。

高尾山でハイキングを楽しみながら交流と自然への理解を深めることを目的としたグループ「高尾山の花名さがし隊」。持ち歩きに便利なポケットサイズの本「高尾山の花名さがし」(1028円)は、花を月別分類して見やすいと好評。





5月

高尾山花だより ～その2～

高尾山の花は足もとに咲いている場合が多いが、今の時期は、上を見上げるとセッコク、マタタビなどの花が木の上に咲いている。セッコクは6号路、1号路などに多く見られる。ケーブルの高尾山駅、清滝駅の構内にもあり、こちらは比較的近くで観察できる。

マタタビは花の咲く時期に葉が部分的に白くなっているので目安にしたい。受粉をしてもらうために、目立たせて、鳥や虫を呼び寄せているといわれている。この実を食べると疲れた旅人が又旅（マタタビ）にて出れるとか！

足もとを楽しませてくれるのは黄色い色のキンラン、イナモリソウなどである。

（文・写真 遠藤進）



セッコク（石斛）

ランの一種でこの花を見に高尾山を訪れる人は多い。



マタタビ（木天蓼）

「猫にまたたび」で有名。猫にかがせると陶酔状態になるらしい。



キンラン（金蘭）

黄色く自立つので盗掘が多い。持ち帰つても育たない。



イナモリソウ（稻森草）

6号路には斑入りのフリイナモリソウと一緒に咲いている。

高尾山でハイキングを楽しみながら交流と自然への理解を深めることを目的としたグループ「高尾山の花名さがし隊」。持ち歩きに便利なポケットサイズの本「高尾山の花名さがし」（1028円）は、花を月別分類して見やすいと好評。





6月

高尾山花だより ～その3～

この季節に高尾山を歩いていると、梅雨のせいかおもしろい植物に出会うことがある。ギンリョウソウもその一つ。別名「幽霊草」ともいうだけあって、不気味な幽霊のように見えなくもない。

ハンショウヅルは、昔あった火の見やぐらの半鐘に似ていておもしろい。花の中にホタルを入れるとランタンのように光ることからホタルフクロと名がついたとか！

似た花にヤマホタルフクロがあるが、こちらは付属体(ガク)が反り返っていないのですぐに見分けがつく。小さな花がいっぱい付いたコムラサキの可愛いいらしさにも注目したい。雨上がりの花がきれいです。



ギンリョウソウ(銀竜草)
竜に似た姿で銀色なのでこの名がついた



コムラサキ(小紫)
葉のふち半分にギザギザの鋸歯がある



ホタルブクロ(蛍袋)
花弁の根元にある付属体(ガク)が反り返っている



ハンショウヅル(半鐘蔓)
茎が暗紫で花も濃い赤茶色で花がかたい

高尾山でハイキングを楽しみながら交流と自然への理解を深めることを目的としたグループ「高尾山の花名さがし隊」。持ち歩きに便利なポケットサイズの本「高尾山の花名さがし」(1028円)は、花を月別分類して見やすいと好評。





7月

高尾山花だより ～その4～

夏になると八王子市の花ヤマユリが咲き始める。高尾山の花の中では大きく、匂いも強いのですぐ分かる。

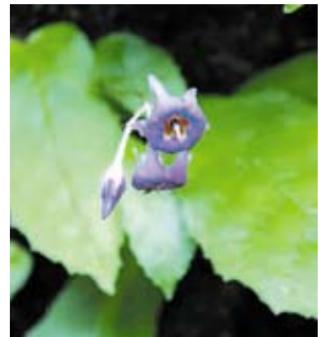
ちなみに八王子市の木はイチョウ、鳥はオオルリなので、ついでに覚えておこう。湿気の多い蛇滝や琵琶滝の岩に大きな葉がへばり付いていると思い、日がたって再訪するとビックリ！ イワタバコの花が咲いている。

また夜になると閉じる花はあるが、葉が閉じるネムノキはおもしろい。淡い紅色が極立つ。レンゲショウマは御岳山の群生が有名だが、高尾山薬王院の大師堂の周りで優雅な花が咲き誇っている。下向きに咲いているので低い位置から撮るのがコツ。

(文・写真 遠藤進)



ヤマユリ(山百合)
花に赤褐色の斑点がある



イワタバコ(岩煙草)
葉が煙草の葉に似ているのでこの名がついた



ネムノキ(合歡木)
夜になると葉が閉じるのでこの名がついた



レンゲショウマ(蓮華升麻)
先端が淡い紫色で綺麗

高尾山でハイキングを楽しみながら交流と自然への理解を深めることを目的としたグループ「高尾山の花名さがし隊」。持ち歩きに便利なポケットサイズの本「高尾山の花名さがし」(1028円)は、花を月別分類して見やすいと好評。





高尾山花だより ～その5～

夏真っ盛り、涼しさを求めて高尾山はいかが！道ばたで舌をペロリと出しているようなハグロソウが迎えてくれます。2枚の花びらの1枚が舌のように見えます。木の上に巻き付いている大きな花はクズ。秋の七草の1つです。

舟がぶら下がっているような花はツリフネソウ。この花は形が崩れ易いので、形のいいのを選んで写すのがコツ。色が黄色のキツリフネという花もあります。

白いツル性の花がいっぱい咲いているのがセンニンソウ。似た花で葉に切れ込みがあるのがボタンツル。

(文・写真 遠藤進)



ハグロソウ(葉黒草)
葉の緑が濃いのでこの名がついた



クズ(葛)
葉も花も大きいツル性で花が蝶のように見える



ツリフネソウ(釣舟草)
帆掛け舟が吊られているように見えるところから命名



センニンソウ(仙人草)
実の先に仙人のひげの様なものが付くのでこの名がついた

高尾山でハイキングを楽しみながら交流と自然への理解を深めることを目的としたグループ「高尾山の花名さがし隊」。持ち歩きに便利なポケットサイズの本「高尾山の花名さがし」(1028円)は、花を月別分類して見やすいと好評。





9月

高尾山花だより ～その6～

虫の音が聞こえ始めるこの季節、秋の花が咲き始めます。高貴な人が舞楽でかぶる鳥兜(とりかぶと)のような花がフジレイジンソウ。似ている花がトリカブトです。この花は毒があるので注意。彼岸の頃に赤く細い線状の花びらをいっぱい咲かせるのがヒガンバナ、花が咲くときには葉がないのが特徴。各地に別名が色々あり、その一つにマンジュシャゲがあります。

この季節釣鐘型の花としてはソバナ、ツリガネニンジン、フクシマシャジンなどがありますが、クサボタンは花びらがくるりと反り返っているのですぐ分かります。

葉が柏の葉に似ているのが力シワバハグマ。似た花に葉がモミジに似ているオクモミジハグマもあり。

(文・写真 遠藤進)



フジレイジンソウ(富士麗人草)
麗人のかぶる冠に似ているのでこの名がついた



ヒガンバナ(彼岸花)
大きくて真っ赤な花が目立つのですぐ分かる



クサボタン(草牡丹)
釣鐘型の花びらが反り返っているのが特徴



カシワバハグマ(柏葉白熊)
ハグマ類の中では高尾山に多く咲いている

高尾山こぼれ話

夏も終わり初秋ですが、涼しい話を一つ。

昭和の初め、高尾山にスキー場があったのをご存知ですか？

都心から一番近いスキー場で、今のケーブルが1927年に開通していました。富士山を見ながら滑れたそうです。

この話をすると誰も信用してくれません。嘘みたいな本当の話。

興味のある人は本書やインターネットで調べてみてはいかが！

